

もう、かれこれ二十数年前のことである。当時の松浦市長からわたしに会いたいとの連絡があった。わたしは下北沢の本多劇場で公演をしていた。確か「風の墓」の公演ではなかったか。市長とは本多劇場のロビーで会った。山口洋平市長は開口一番「松浦市に文化ホールを造りたい」とおっしゃった。すでに設計図もできていた。「あなたのために造るごたるもんですた」ともおっしゃった。

その設計図を見ていささか驚いた。収容人数が2千人のホールである。「市長、これは4年に1回の選挙用のホールです。あなたのためのホールです」と忌憚なく述べると、苦笑いをしていた。わたしは「紀伊國屋ホールや本多劇場のような

に、演劇中心の中ホールができてるのである。嬉しくてたまらなかった。そして、日本中に誇れるホールが完成したのである。ただ、駅裏に造るといふのが気にはなつた。駅裏といえは不良の高校生が喧嘩をしたり、たばこを吸ったりしているイメー

に、山口洋平市長は「ひとつだけ条件があります」とおっしゃった。それは「いままで書いているような松浦ではなく、華やかな松浦を書いてくれ」ということであつた。「華やかな松浦といわれてもなあ」である。そこでぴんときたのが「松浦党」である。松浦党は源平合戦にも参加した水軍である。それが「異聞・源平盛衰記 風と牙」である。

経を追って松浦までも攻めて来るが、吾妻姫をあがめる女界灘の龍にやられる。嘘をドラマという。好きな作品である。嘘は嘘と知つても、だまされる嘘がある。だまされた人も悪い。文化人という言葉がある。みずから「わたしは文化人ですから」と名乗る人もいる。昔はベレー帽をかぶり、パイプをふかしていた。あるいはピー缶を持っていた。服はロシアの民族服である。ルバシカである。あんな文化人はいない。文化人もどきである。すぐばれる嘘をつく文化人もどきである。その嘘とポーズを見破るのを真の文化人という。なにもベレー帽はいらない。(松浦市出身)

# 嘘を見破る文化人

収容人数は500人ぐらいがい」と率直に述べた。人口2万3千人の松浦市には中ホールが似合うと考えた。それからは松浦と行ったり来たりであつた。大衆演劇の沢竜二から「あなたの故郷はひどかつた。電気もなかつた」といわれて悔しい思いをした松浦市

テンボスである。社長も松浦までお連れした。ただ、泊まりは平戸のホテルであつた。だれもが平戸に泊まりたがつた。いまは佐世保のハウス

武に秀でた美貌の松浦党の姫を主人公に置いた。もちろん、実在はしない。この美貌の姫を巡って、源頼朝と源義経がいさか

いを起すのである。頼朝は義